

3 学部合同学生セミナー

責任者・ コーディネーター	全学教育推進機構長 佐藤洋一教授 医学教育学講座地域医療学分野 伊藤智範教授		
担当講座	全学教育推進機構、各学部担当講座		
担当教員	【医・歯・薬 各学部】教務委員長、担当講座担当教員		
対象学年	6 (医歯薬3学部)	区分・時間数	演習 8.5時間
期 間	前期		

■ 学習方針（講義概要等）

専門職連携教育(Interprofessional Education)の一環として、修得した医学・歯学・薬学の専門知識と経験をもとに、患者と家族の福利を最優先する倫理観に基づいて、病院内での治療と地域社会での生活支援を最適に進めるために医療系専門職がどのように貢献できるかを、Paper Patient で多方面から検討する。

■ 教育成果（アウトカム）

患者中心の医療を実践するために、「誠の人間」にふさわしい謙虚さを身につけ、患者やその家族・医療従事者間で、互いの立場を尊重した関係を構築するため、患者福利を第一とし複数の学部学生が自己の専門的知識をもとに協議するなかで、病者に対する多角的な視点を学び、自らの職種役割の再認識と他職種尊重の姿勢を身につける。また、それぞれの職種が患者と家族に向けて、あるいは職種間で最も適切なコミュニケーションをどのようにとれば良いか行動科学的知識をもとに実践することで、コミュニケーションスキルが向上する。(ディプロマ・ポリシー) 医 DP 1,2,3,4,5,6,7,8 歯 DP 3,4,5 薬 DP 2,3,5,6

■ 到達目標（SB0s）

1. 医療人として患者個人の尊厳・福利を第一とする生命倫理に基づき、科学的思考に基づいた治療計画を提案できる。
2. チームの中で協力して、課題から問題点を抽出し、解決策を提示することができる。
3. 同級生や他学部の学生とで行う模擬カンファランスにおいて、担当患者の要約を報告できる。
4. 同級生や他学部の学生とで構成されたチーム間で情報の共有や説明、伝達ができる。
5. 患者や家族と一緒に病の克服に向けた活動をするための、インフォームドコンセントや生活指導を試みる。

■ 成績評価方法

ルーブリックによりチーム作業を評価（60%）、他発表会評価（20%）、成果物評価（20%）により評価する。欠席者については別途課題について指示指定するものとする。

■ 事前学修時間・内容

事前に提示された症例について、各学部の専門分野に関連して病態生理や治療方法等について、教科書や参考書、図書館を利用して調べ、学部内で討議して他学部への確認点や学部内での治療方針を定めておくこと。以上の作業には、およそ7時間以上を要する。

■ 特記事項・その他

開催日：平成 30 年 4 月 21 日（土）9：00-17：30 会場：矢巾キャンパス